

# 2007 年 10 月号 目次

## 【トピックス】

デング熱が流行しています！	1
医動物検査	3
平成 19 年度 細菌性食中毒検査 (4~9 月)	5
平成 19 年度 食品等の苦情品検査 (4~9 月)	6
ウエストナイルウイルス (WNV) のサーベイランス事業 (その 4)	14

## 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査委員会報告 9 月	15
感染症発生動向調査における病原体検査 9 月	18

## 検査結果

由来別病原菌検出状況 9 月	19
----------------	----

## 情報提供

衛生研究所 WEB ページ情報 (その 43)	20
-------------------------	----

# デング熱が流行しています！

デング熱はデングウイルスを持った蚊(主にネッタイシマカとヒトスジシマカ)に刺されることによってかかる感染症です。

地球温暖化に伴い、媒介する蚊の生息域が拡大し、東南アジアを始めとする多くの国で発生しています。日本では、国内発生例はなく、単発の輸入例が続いています。しかし、国内にも媒介蚊が常在することから、ウイルスが侵入すれば日本国内でも流行が起ころうと考えられます。

デングウイルスは、日本脳炎とは異なり、蚊を介してのヒトからヒトへの感染があります。発病前日から5病日は、患者が蚊への感染源になる可能性がありますので、流行地から帰国しデング熱にかかっている可能性のある方は、蚊にさされないように注意してください。

デング熱には、一過性熱性疾患であるデング熱と、適切な治療が行われないと死に至ることもある重症型のデング出血熱の二つの病態があります。

## < 病原体 >

デングウイルスはフラビウイルス科のフラビウイルス属に入るウイルスで、4つの血清型(1、2、3、4型)があります。かかった型に対しては終生免疫が得られますが、他の型へは6か月もすると感染する可能性があります。この場合、デング出血熱になる確率が高くなるといわれています。(海外に長期滞在する方は、特に注意が必要です。)

## < 臨床症状 >

潜伏期は3～15日、通常5～6日です。突然の発熱(熱は5日、まれに7日以上続く)、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹(通常発熱後3～4日に起こり、斑紋丘疹性またはしょう紅熱様)を特徴とする急性熱性疾患です。

## < 発生状況 >

1999～2007年7月17日現在の全国における発生状況は、計375例で、全て輸入例でした。横浜市における発生状況は、32例です。

横浜市では、2007年になって7例の報告がありました。

性別:男2例、女5例でした。

年齢:すべて20代(20～27歳)でした。

職業:学生4例、会社員2例、不明1例でした。

感染地域:インド2例、タイ、フィリピン(マニラ近郊)、ジャマイカ、カンボジア、インドネシア(バリ島)各1例でした。

表1 デングウイルスの血清型と推定感染地域

血清型	患者数(人)	推定感染地域
1型	2	タイ、インド
2型	2	インド、フィリピン(マニラ近郊)
3型	1	カンボジア
4型	1	ジャマイカ
不明	1	インドネシア(バリ島)
計	7	

表2 抗体・ウイルス遺伝子検査結果

No	採血時期 (病日)	抗体検査				ウイルス遺伝子検査	
		IgM	IgG	IgM capture ELISA	Real time PCR	serotype	
1	6	+	±	+	+	Dengue type 1	
2	5	+	-	+	+	Dengue type 2	
3	2	-	-	-	+	Dengue type 2	
4	7	+	-	+	+	Dengue type 3	
5	5	+	-	NT **	+	Dengue type 3	
6	3	±	-	±	+	Dengue type 4	
7	3	±	-	-	-	不検出	
8	不明	不明	不明	不明	+	Dengue type 1	

表1に血清型を、表2に衛生研究所等で行った抗体・ウイルス遺伝子の検査結果を示しました。

抗体・ウイルス遺伝子検査は、横浜市民病院感染症部を受診し、疑いのある7症例(No1～7)について、横浜市衛生研究所で実施し、6症例(No1～6)からデングウイルスが検出されました。

1症例(No8)は国立感染症研究所でデングウイルスが検出されました。

\* 採血年月日-発病年月日

\*\* Not Test

### < 予防法と対策 >

有効な予防法や治療法はないので、忌避剤を使用したり、網戸や蚊帳(かや)等を設置し、蚊にさされないように工夫することが大切です。

日本国内にはデングウイルス、チクングニヤウイルスの媒介蚊であるヒトスジシマカが生息しています。その分布北限は青森県に近づいており、さらに北上しつつあります。また航空機や船舶によりネッタイシマカが侵入する可能性もあります。1942～1945年にかけて西日本でヒトスジシマカを媒介蚊としたデング熱の流行があったように、現在でも、日本にデングウイルスが侵入した場合、流行する環境的条件は十分整っています。

医師は、世界のデング熱流行の情報に注意して渡航歴の問診を行い、患者を早期診断すること、ウイルス血症期にある発熱中の患者が蚊に刺されないようにすること、ウイルスが存在する可能性のある患者血液について、輸血、針刺し等による院内感染防止のための基本的な注意をすることが必要です。

### < 感染症法との位置づけ >

感染症法に基づく感染症発生動向調査では、デング熱は全数把握の四類感染症として診断後直ちに届け出ることが医師に義務付けられています。また、2007年6月1日から施行されている改正感染症法に基づき、“生物テロに使用されるおそれのある病原体等の管理の強化”が図られ、その所持あるいは運搬が厳重に規制されることになりました。デングウイルスは、この病原体に関する分類では、四種病原体に位置づけられています。(IASR 28: 185-188, 2007参照 <http://idsc.nih.gov/jp/iasr/28/329/tpc329-j.html>)

四種病原体等とは、デングウイルス、インフルエンザウイルス(H2N2、H5N1、H7N7)、ウエストナイルウイルス、結核菌(多剤耐性結核菌を除く)、コレラ菌、腸管出血性大腸菌、ポリオウイルス、日本脳炎ウイルス等と同程度の病原性を有し、国民の健康に影響を与えるおそれがある病原体等として政令で定められているものです。

四種病原体等所持者(研究検査機関等)には、所持に関して許可や届出の義務はありませんが、特定病原体等による感染症の発生の予防およびまん延の防止のために必要な措置を講じることは他の特定病原体等と同様です。保管、使用または滅菌等をする施設の位置、構造および設備、また、保管、使用、運搬または滅菌等をする場合においても、厚生労働省令で定める技術上の基準に適合するように維持する必要があります。

### < 参考資料 >

- ・東南アジアで、デング熱に感染する人が増えています！(横浜市衛生研究所 市民向け情報)  
[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2007nen/dengue.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2007nen/dengue.pdf)
- ・外務省が提供する感染症(SARS・鳥インフルエンザ等)関連情報について  
3. 感染症スポット情報(外務省 海外安全ホームページ)  
[http://www.anzen.mofa.go.jp/kaian\\_search/sars.asp](http://www.anzen.mofa.go.jp/kaian_search/sars.asp)
- ・デング熱流行地域(出典:WHO及びCDCの情報に基づき国立感染症研究所作成 2004)  
[http://idsc.nih.gov/jp/idwr/kansen/k04/k04\\_50/kansen01.gif](http://idsc.nih.gov/jp/idwr/kansen/k04/k04_50/kansen01.gif)
- ・デング熱(感染症情報センター)  
[http://idsc.nih.gov/jp/idwr/kansen/k04/k04\\_50/k04\\_50.html](http://idsc.nih.gov/jp/idwr/kansen/k04/k04_50/k04_50.html)
- ・デング熱(厚生労働省検疫所 海外感染症情報)  
[http://www.forth.go.jp/tourist/kansen/09\\_dengu.html](http://www.forth.go.jp/tourist/kansen/09_dengu.html)
- ・デング熱に関する厚生労働省のチラシ 蚊にさされないよう注意しましょう。(厚生労働省検疫所のチラシ)  
<http://www.forth.go.jp/pdf/kanityuui060724.pdf>

【 感染症・疫学情報課 】

## 医動物検査

医動物室における平成19年7～9月の検査件数を表に示しました。

【行政検査：福祉保健センター、市場食品衛生検査所など行政からの依頼】

食品中異物検査が5件(イカフライに混入したニクバエ亜科の幼虫、インスタントコーヒーに混入したメイガ科の一種、カレーに混入したジガバチ科の一種、スパイスに混入したヒラタチャタテ、パンの材料一部が焦げ異物様になったもの)、種類同定検査が10件(アリ類の蛹殻、ベッコウハゴロモ、チョウ目の一種、ナガサキニセケバエ、ヒメマルカツオブシムシの幼虫、オオチョウバエの幼虫、サクラアリの職蟻、アシダカグモの雄成体、ハエ目の若齢幼虫、アリグモの雄成体)でした。

ウエストナイル熱媒介蚊調査のために、市内公園や港湾地区などで週に1回ライトトラップを用いて採集された蚊を分類同定しました。7～9月中に13回(1回22定点)調査を行いました。期間中に採集された蚊は、7属11種、6,816個体(雄を含む)でした。本調査は10月下旬まで継続実施します。

【依頼検査：市民、事業者からの有料依頼】

種類同定検査が1件(シミ科の一種)、食品中異物検査が2件(レタスに付着したミズ綱の一種、弁当内に混入したマダラメイガ亜科幼虫)でした。

【その他：感染症媒介昆虫等の市内における生息状況を把握するために行う調査や市民からの問い合わせ等】

中区、磯子区及び南区でライトトラップを用い、週に1回飛翔昆虫調査を行いました。7～9月中に51定点の調査を行いました。

また、中区の5飲食店、53定点で粘着式トラップによるチャバネゴキブリの生息状況調査を実施しました。7～9月中にのべ742ヶ所の調査を行いました。

感染症媒介昆虫調査の一環として、中区(2回：84ヶ所)、磯子区(4回：200ヶ所)及び保土ヶ谷区(5回：250ヶ所)において雨水枡における蚊幼虫調査を行いました。

検査試験項目	平成19年			平成19年	
	7月	8月	9月	4～9月	
行政検査	種類同定検査	2	4	4	14 件
	食品中異物検査	3	1	1	7 件
	ウエストナイル熱蚊検査				
	採集地点数	110	88	88	308 定点
	個 体 数	1890	2380	2546	7619 個体
依頼検査	種類同定検査	1	0	0	2 件
	食品中異物検査	1	0	1	2 件
	発生状況調査(ダニ類)				
	調査回数	0	0	0	5 件
	個 体 数	0	0	0	1 個体
	殺虫剤効力試験	0	0	0	0 件
その他	ゴキブリ調査	265	265	212	1431 カ所
	飛翔昆虫調査	15	20	16	91 定点
	その他の調査等	242	242	50	722 件
	問い合わせへの回答	36	15	11	103 回

## !!注意しましょう!!

チャドクガはツバキ、サザンカなどの葉に春と秋の2回発生します。毒針毛があり、人に発疹・かゆみを起こします。幼虫、成虫ともに注意が必要です。



チャドクガ成虫



チャドクガ幼虫

### 検査試験項目等 解説

#### 種類同定検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった昆虫・ダニ類の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、その発生時期、発生場所、害の有無などに基づいて駆除の必要性、駆除方法、予防法などが明らかになります。

#### 食品中異物検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった食品に混入した昆虫の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、混入経路を推定する一助となります。

#### ウエストナイル熱媒介蚊調査

健康福祉局の「ウエストナイル熱対策事業(18区)」及び中区の「区づくり事業」におけるウエストナイルウイルスの調査を行っています。種ごとのウイルス保有状況を調べるため、市内公園や港湾地区などで採集された蚊を分類同定します。

#### ダニ類等発生状況調査

市民からのかゆみや虫刺されの相談に基づいて、必要に応じて、住宅内でのダニ検査を行います。ダニ発生の有無を調べ、発生している場合には人を刺すダニであるかなどの検査を行います。

#### 殺虫剤効力試験

新しく開発された防疫用殺虫剤の効力試験を、室内(基礎)および野外(実地)で行います。

#### ゴキブリ調査

実際に営業している飲食店におけるゴキブリの生態を把握するため、また殺虫剤の実地効力試験の予備調査として、ゴキブリ生息状況調査を行っています。

#### 飛翔昆虫調査

ライトトラップを用い、時期ごとに大量発生している昆虫類等の発生状況や感染症媒介昆虫である蚊類成虫を中心とした飛翔昆虫の発生状況を調査しています。

#### その他の調査等

19年度は、雨水枡内での蚊の生息状況観察と幼虫に対する薬剤効果試験を行っています。

#### 問い合わせ

市民の方などから相談のあった、昆虫・ダニ一般、昆虫媒介性疾病、殺虫剤などに関する不安、疑問に回答、助言、指導をします。

【 医動物担当 】

## 平成19年度 細菌性食中毒検査(4～9月)

平成19年4～9月までに食中毒およびその疑いで当所に検体が持ち込まれた64事例中、疫学的に食中毒と判定した事例は37事例でした。そのうち、病因物質(起因菌等)の確定した事例は30事例(83.0%)でした。

食中毒起因菌の第1位(事例数)は、カンピロバクター8事例(26.7%)でした。

つぎに腸炎ビブリオが6事例(20.0%)で昨年度と同様の順位でした。

毒素原性大腸菌およびウェルシュ菌は各2事例、サルモネラおよび黄色ブドウ球菌が各1事例でした。

また、腸管出血性大腸菌による事例は1事例のみでした。なお、感染症として依頼された腸管出血性大腸菌は52事例でした。その内訳を表および図に示しました。

分離されたカンピロバクターの血清型は今回も様々で同じ事例でも複数の血清型が検出されることが多くみられました。カンピロバクターによる主な原因となる食品は鶏肉で、その発生原因は原材料の汚染、生食、加熱不足、二次汚染等です。

腸炎ビブリオの血清型は、O3:K6が3事例、複数の血清型が検出されたものが3事例でした。その発生原因は魚介類の生食、原材料の汚染等です。

毒素原性大腸菌はO6:H16でST産生とLTおよびST産生が各1事例、腸管出血性大腸菌によるものはO157:H7(VT1&2)、サルモネラは血清型Typhimurium、黄色ブドウ球菌はコアグララーゼⅢ型、エンテロトキシンA型がそれぞれ1事例でした。

表 起因菌別事例数(4～9月)

原因菌	事例数
カンピロバクター	8
腸炎ビブリオ	6
毒素原性大腸菌	2
ウェルシュ菌	2
腸管出血性大腸菌	1
サルモネラ	1
黄色ブドウ球菌	1
その他 *	9
不明	7
計	37

\* 細菌性以外の事例

【 細菌担当 】

事例数

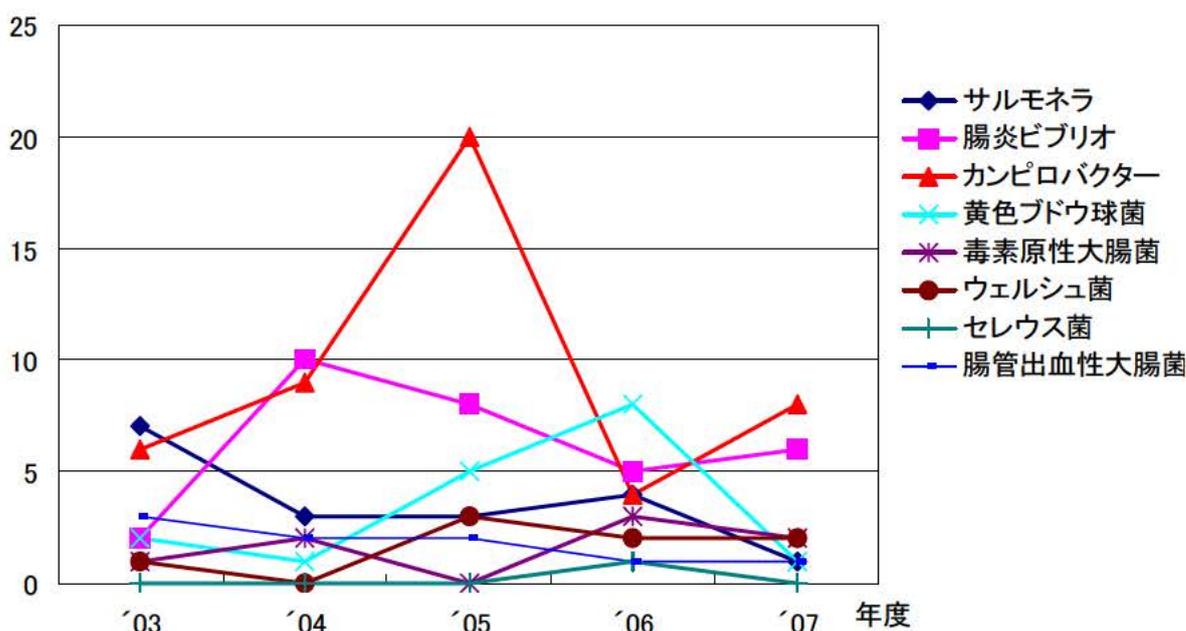


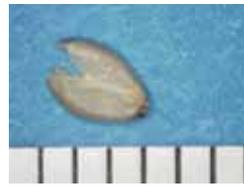
図 食中毒検出件数

## 平成19年度 食品等の苦情品検査(4～9月)

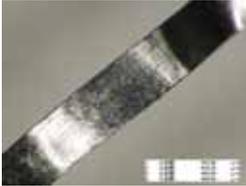
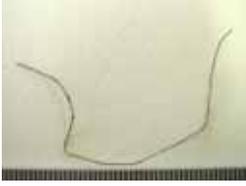
平成19年度上半期に、区福祉保健センターに届けられた食品等に関する苦情品の中で、原因究明のために当所へ搬入された検体は、60件、97検体でした。苦情の内容は様々ですが、理化学検査を中心に行った主な検体の検査結果は次のとおりです。

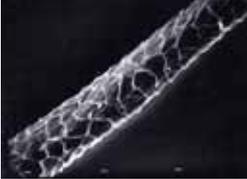
品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ツナコーン スパゲティ 中の異物	食べたところ、コーンが硬かった。 	外観 デジタルマイクログラフ リグニン反応 結果	大きさ10×6×5mm、重さ0.17g。一端が黄色の固まりで、白色透明の皮状のもの。 植物性の構造を有し、透明部分はトウモロコシの種子の皮と同様であった。 黄色の硬い部分は赤紫色に変わった。 トウモロコシの種子の一部で芯に付着した硬い部分と推定された。
チーズかまぼこ	黒い小さなごみのようなものが入っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 デジタルマイクログラフ 結果	かまぼこの表面の所々に小さな黒い斑点(大きさ1mm以下)を認める。 黒色部分は動物の黒い色素組織で、対照品も同様であった。 かまぼこから分離した斑点は、黒い不定形な模様を示していた。対照品(魚肉練り製品)から分離した斑点も同様であった。 斑点は魚の黒い色素組織と推定された。
たらこに付着した異物	毛髪のようなものが、塩蔵たらこに付着していた。 	外観 デジタルマイクログラフ 光学透過顕微鏡 ニンヒドリン反応 結果	太さ0.2～0.6mm、長さ30mm及び42mm。白色、一部が黒褐色の毛髪様の物質。 縦に黒い筋のある透明で筒状の形態をしていた。 毛の特徴である毛表皮紋理(キューティクル)は認めなかった。 赤紫色に呈色した。 たらこに付着していたことにより、たらこの血管と推定された。
さといも煮物	冷凍さといもを購入後、調理し食べたところ、1個だけ、強い異臭(灯油臭)がした。	官能試験 GC/MS 結果	石油臭を認める。 灯油:不検出 軽油:240ppm 軽油による汚染と推定された。
合挽肉中の異物	調理をしていたら白い異物が出てきた。 	外観 デジタルマイクログラフ 赤外分光分析 結果	大きさ8×4mm、4×3mm、3×2mm、2×1mm。白い薄片で、小さな穴を認める。 六角形の中心に穴のあいた形状の集合体であった。片面に透明な繊維の付着を認めた。参考品の脱水シートに形状が類似していた。 ポリエチレンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 脱水シートの破片と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ショウロンポウ(未加熱)	頬が痛みさらに首から頭にかけて痛み、手足がだるく上半身しびれを感じて、その後嘔吐した。	HPLC 結果 参考	グルタミン酸Na:1.8%。 グルタミン酸ナトリウムの過剰使用と推定された。 一人前に10gのグルタミン酸ナトリウムを使用していた。
天津むき甘栗(むき栗)	カビの様なものが表面の一部に見られた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 走査型電子顕微鏡  真菌検査 結果	表面に5mm大の灰色部分を認めた。 表面に付着した微細な粉状の物質を認めた。 灰色部分は針状の結晶状の物質で覆われていた。 陰性。 灰色部分はカビではなく、針状の結晶状の物質であるが、微少のため検査はできなかった。
かつおぶし中の異物	硬い固まりが入っていた。何か？ 	外観  燃焼性  赤外分光分析  結果	長さ2~7mm、太さ0.5mm、重さ全量8.5mg。6本の淡黄色で円柱状の物質を認めた。 炎で燃やすと黒く炭化し、白色の硬い灰分が残った。 骨と同様な赤外吸収スペクトルを認めた。灰化後のものは、骨を灰化したものと同様のスペクトルを認めた。 魚の骨と推定された。
焼きそば中の異物	黒い塊が入っていた。 	外観  デジタルマイクロスコープ  燃焼性  溶解性 結果	大きさ4×2×1mm、重さ2.4mg。黒色で、不定形な固まりを認めた。 表面は凹凸があり、片面の一部に平らな面がみられた。全体に黒色でもろく、切断面に多数の穴を認めた。 炎で加熱すると赤く燃えて、白い灰分がわずかに残った。 水、エタノール、エーテルに不溶。水に浮く。 そばの具材の炭化物と推定された。
即席めん中の異物	黒いかたまりが入っていた。 	外観  燃焼性  光学透過顕微鏡  その他 赤外分光分析  結果	大きさ1×3mm~3×6mm、重さ1.3~14mg。茶褐色の小片9個。 炎で加熱すると、タマネギのてんぷらのような臭いがした。 水にふやかし、薄い膜を生物顕微鏡で観察すると、タマネギと同様な細胞を認めた。 ジエチルエーテルで油状物質が抽出された。 油状物質は植物油と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 タマネギを油で揚げたものと推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
肉じゃが中の異物	硬い固まりが入っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 リグニン反応結果	大きさ10×25mm、4×19mm、重さ各0.44、0.06g。淡黄色で一部が橙色であり、硬い木質部を認めた。 切片を観察すると、細胞、導管、部分的に赤色色素を認めた。切片はニンジンの芯の部分の切片と類似していた。 陽性。 異物は植物組織であり、ニンジンの芯の木質化したものと推定された。
ハンバーグマトソース中の異物	硬い固まりが入っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 リグニン反応結果	長さ14～18mm、太さ1mm、重さ全量4.1、5.4、7.0mg。淡黄色で、木片様の三片で、一部が裂けてほつれたような状態であった。 切片をメチレンブルーで染色し、観察すると、維管束などの植物組織を認めた。 陽性。 植物の破片と推定された。
ホイコーロー中の細い棒状の異物	毛が入っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 結果	長さ1.7mm、太さ0.14mm。茶褐色の毛様の物質。片側に毛根を認め、先端はちぎれた状態であり、表面は細かな横行波状の小皮紋理を認めた。断面は長楕円形であり、髄は認めない。 人の毛と推定される。
ホイコーロー中の白い固形状の異物	白くて硬い固まりが入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコーブ 赤外分光分析 結果	大きさ1.5×4×4mm、重さ25mg。白色の硬い固まり。 表面は一方向に走るスジを多数認めた。側面は淡黄褐色の部分の部分を認めた。 骨と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。灰化後のものは、骨を灰化したものと同様のスペクトルを認めた。 骨の破片と推定された。
クリーム＆プリン(生洋菓子)中の異物	硬いものが入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコーブ 光学透過顕微鏡 結果	大きさ3×2mm、楕円形で、一部割れたような形をした、灰白色の固まり。 縦に走るスジがみられた。 大きさや形状がゴマに類似していた。 皮の部分をメチレンブルーで染色し観察すると、ゴマの皮の部分を染色したものと類似していた。 ゴマの皮と推定された。
胡麻煎餅中の異物	硬い固まりが入っていた。 	外観 ヨウ素デンプン反応 赤外分光分析 結果	大きさ3×7×2mm、重さ44mg。白色透明の固まり。お湯に浸すと、柔らかな固まりとなった。 陽性。 デンプンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 デンプンの固まりが乾燥したものと推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
厚揚げのカレー炒め中の異物	プラスチック片が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析結果	大きさ8×4cm、厚さ15μm、重さ52mg。黄色の合成樹脂のフィルムでカレー臭を認めた。 シートの一端にラップの切り口に似たぎざぎざを認めた。 ポリ塩化ビニルと同様の吸収スペクトルを認めた。 ポリ塩化ビニルのフィルム片と推定された。
キシリクリスタルブルーのど飴	白い硬い固まりが入っていた。 	外観 赤外分光分析結果	大きさ6×4×2.5mm、重さ61mg。白色の硬い固まり。 飴の中間層の白色部分に類似した吸収スペクトルを認めた。 飴の白色部分の破片と推定された。
カレーうどん中のガラス様異物	ガラス様の破片が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析結果	大きさ3×4.5×3.5mm、重さ63mg。淡青色のガラス様の固まり。 表面の一部にスリガラスや湾曲に削るなどの加工の跡を認める。 ガラスと同様の吸収スペクトルを認めた。 一部に加工を施したガラスの破片と推定された。
海藻サラダ中の異物	プラスチック片が入っていた。 	外観 赤外分光分析結果	大きさ100×12mm、重さ43mg。無色透明でテープ状のもので、短方向に折り重なりを認めた。片面に弱い粘着性があり、部分的に微細な付着物がみられた。 ポリプロピレンと同様な吸収スペクトルを認めた。 材質がポリプロピレンである接着用のテープの破片と推定された。
ラーメン中の異物	プラスチック片が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析結果	底辺50mm、高さ25mmの三角形を2つ並べた形状の半透明の薄いフィルム。厚さ7～8μm。 対照品の角の切れ込み部分と同様な形状をしていた。 ポリエチレンと同様な吸収スペクトルを認めた。 ポリエチレンのフィルムの破片と推定された。
味噌汁中の異物	プラスチック片が入っていた。 	外観 赤外分光分析結果	底面25mm、高さ15mm、重さ10mg。三角形をした透明で、二重になったフィルム。中央に熱で圧着した跡を認めた。 ポリエチレンと同様なスペクトルを認めた。 ポリエチレンフィルムの破片と推定された。
食パン中の異物	プラスチック片が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析結果	大きさ13mm×14mm、厚さ2mm。白色のプラスチック片で、片面に茶色い付着物が見られた。 表面のキズは片面は横に、反対面は斜めに走っていた。 ポリエチレンと同様なスペクトルを認めた。 表面のキズと大きさより対照品(製造所で使用されていたパッキン)の一部と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
味噌汁中の異物	金属片が入っていた。 	外観 デジタルマイクروسコープ マイクロアナライザー 性状 結果	長さ43mm、幅0.44mm、厚さ0.020mm、重さ5.1mg。 銀色のテープ状の物質。 縦に走るスジがみられた。 鉄とクロムの元素を認めた。 磁性を有する。 鉄とクロムからなるステンレス製で、形態的に金属タワシの一部と推定された。
ミルクブレッド中の異物	虫みたいなものが入っていた。 	外観 デジタルマイクروسコープ 光学透過顕微鏡 赤外分光分析 結果	大きさ10×6×1.5mm、淡褐色で楕円形した硬い固まり。 フィルム状で、大きさの異なる多数の泡状の空洞からなる。周辺部に1mm以下の縁がみられた。底面は平らで、上面が盛り上がっていた。 フィルム状のものは、乳を焦がしたものと類似した構造であった。 タンパク質に類似した吸収スペクトルを認めた。当所で用意した乳を焦がしたものとスペクトルは類似していた。 乳成分が焦げたものと推定された。
釜揚げしらす中の異物	毛髪様のものが入っていた。 	外観 デジタルマイクروسコープ 走査型電子顕微鏡 赤外分光分析 結果	長さ41mm、太さ0.11mm、重さ0.2mg。黒色の毛様の物質。 表面全体に白色の付着物を認めた。 扁平で部分的に亀裂を認めた。毛の表皮紋理は認めない。 セルロースに類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 植物性の繊維と推定された。
かんぴょう巻に付着した異物	海苔の部分に白い細かな粉の様なものが付着していた。 	外観 溶解性 デジタルマイクروسコープ 光学透過顕微鏡 走査型電子顕微鏡 真菌検査 結果	海苔の表面の一部に白色の小さな固まりを認めた。 水に不溶。 0.1mm以下の白色の粒子を多数認めた。 円形及び楕円形の微細な粒子を多数認めた。 微細な粒子が集まった丸い固まりを多数認めた。 酵母類を検出。 形態から酵母類と推定された。
ワンタンスープ中の異物	硬い固まりが入っていた。 	外観 溶解性 原子吸光分析 塩化物 結果	大きさ1×0.5×1mm～4×3×3mm、重さ2～81mg。7個の無色透明の正方晶系の結晶。 水に可溶。 Na: 39.2% (食塩換算100%) 水溶液は硝酸銀で白濁した。 食塩の結晶と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
チキンロール中の異物(毛)	毛が入っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 走査型電子顕微鏡 結果	長さ51mm、太さ0.07mm。白色で、全体に波状の細い毛様のもの。 先端部は針状であり、毛根部は切れて認められなかった。毛の髄質は太く、ネコの毛に類似していた。 表面に小皮紋理を認めた。小皮紋理はうろこ状でネコの毛に類似していた。 ネコの毛と推定された。
メロンパン中の異物	黒い細かなものが付いていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ リグニン反応 赤外分光分析 結果	パンの中に3×4mm程度の大きさで、微細な黒褐色の粒が点在する固まりを認めた。 黒褐色の部分は丸い微細な固まりで、カビの菌糸は認めない。長さ1～6mm、太さ0.05～0.07mmの多数の透明な繊維を認めた。 繊維は陽性。 繊維は植物繊維と同様なスペクトルを認めた。 植物繊維とデンプン等の炭化物の集まりと推定された。
グレープフルーツ(ルビー)	色が濃く、色が付けられているのでは	デジタルマイクロスコープ 着色料 結果	つぶつぶの皮の部分に色素細胞と思われる赤い斑点を多数認めた。 不検出。 グレープフルーツ本来の色と推定された。
キムチ中の異物	金属の破片が入っていた。 	外観 溶解性 その他 デジタルマイクロスコープ マイクロアナライザー 結果	長さ24mm、太さ0.9mm、重さ41.4mg。銀白色の柔らかな針金。 濃塩酸に発泡して溶けた。 磁性を認めない。 表面はザラついており、一部に腐食がみられた。 アルミニウムの元素が認められた。 アルミニウムの針金の破片と推定された。
イカフライ	ゴム様の異物が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 燃焼性 ニンヒドリン反応 赤外分光分析 結果	大きさ40×5mm、重さ31mg。硬い淡黄色の薄片。 水に浸すと膨潤し、透明な繊維が見られた。 炎で加熱するとイカを焼いた臭いを発した。 陽性。 タンパク質と同様な吸収スペクトルを認めた。 イカの断片と推定された。
あんぱん中の異物	木片状の異物が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析 リグニン反応 結果	大きさ19×2mm、7×2mm、各重さ70mg、14mg。 2本の茶色の木片状のもので一部が白くなっていた。 表面に、餡や糖などの付着が認められ、水で洗浄すると繊維状の組織が認められた。 水で洗浄した異物は木片の吸収スペクトルに類似していた。 陽性。 木片に餡や糖が付着したものと推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ひき肉	ひき肉の一部が黒くなっていた。 	外観 デジタルマイクroskop 溶解性 鉄の定性反応 結果	1～10mm大の灰黒色部分を多数認めた。 肉の一部が灰黒色になっていた。 塩酸で灰黒色部分は溶けて淡黄色に変わった。 チオシアン酸アンモニウム液を塩酸で溶けた液に滴下すると赤変した。鉄：陽性。 肉に鉄分が付着したものと推定された。
キャンディー	食後30分でジンマシンを発症し、嘔吐した。 キャンディーの中身を確認したい。 病院のアレルギー検査でピーナッツが陽性であった。 	外観 官能検査 光学透過顕微鏡 走査電子顕微鏡 結果	キャンディーの中身を水に浸すと、細かな粉末のほか、大きさ1mm弱の粒を若干認めた。 キャンディーを割ったところ、ピーナッツバターの臭いを認めた。 1mm大の粒にヨウ素液を滴下して観察したところ、当所で用意したピーナッツと同様なデンプン粒等を認めた。 1mm大の粒は多穴質の構造を示し、当所で用意したピーナッツと同様であった。 キャンディーの内容物はピーナッツを含む製品と推定された。
にんにくの酢漬け中の異物	漬物の容器の底に異物を認めた。 	外観 その他 赤外分光分析 結果	大きさ1.5～3.0mm、重さ3.3～22mg。褐色透明で多数の球形の固まりを認めた。 次亜塩素酸で脱色し、乾燥させると透明で淡い青色の固まりとなった。 シリカゲルと同様な吸収スペクトルを認めた。 乾燥剤のシリカゲルと推定された。
トマトジュース中の異物	トマトジュースで酒を割って飲んでいたらコップの底に麺様のものが入っていた。 	外観 ヨウ素デンプン反応 光学透過顕微鏡 結果	長さ30mm×太さ1mm、2本の白色の麺様のもの。陽性。 小麦粉と同様なデンプン粒を認めた。また、デンプン粒は加熱による変形を認めた。 小麦粉を原料とする麺(そうめん)の茹でられたものの一部と推定された。
海藻サラダ中の透明物質	水でもどして食べたところ硬くて、食感がおかしい。プラスチックではないかと思われた。 	外観 溶解性 赤外分光分析 結果	海藻サラダ中に長さ20～60mm×幅4mmの無色透明のフィルム様の物質を多数認めた。 熱湯に完全に溶け、冷やすと固まりゼリー状になった。 寒天と同様な吸収スペクトルを認めた。 透明物質は寒天と推定された。
ぶり照焼	食べると舌先がしびれた。下痢もした。	ヒスタミン 結果	5.9g/kg(590mg%) ヒスタミンによるアレルギー様食中毒と推定された。
あじ丸干	食後30分で嘔吐、舌を刺すような刺激があった。 	ヒスタミン 結果	2.2g/kg(220mg%) 食べ残し 1.1g/kg(110mg%) 同じ製品 ヒスタミンによるアレルギー様食中毒と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
清涼飲料水 ボトル(容器)	容器内側に緑のものがついている。	外観 溶解性 結果	ボトルの表面に緑色の斑点を数個認める。 緑色の斑点はアセトンを浸み込ませた綿棒で溶けた。 ボトル表面に塗装等が付着したと推定された。
アイスクリーム に付着した異物	小さな異物が付着していた。 	外観 溶解性 燃焼性 光学透過顕微鏡 マイクロアナライザー 結果	大きさ3.8×1.3mm、2×1mmの2個。アイスクリームの表面に白色で一部が黒い固まりが付着していた。固まりは柔らかく、金属針で押すと崩れた。 水、エタノール、アセトン等に不溶。 炎で加熱しても、燃えない。 一部をつぶして顕微鏡で観察すると微細な粒子の集まりであった。 ケイ素、マグネシウム、アルミニウム、チタンの元素を認めた。 ケイ素、マグネシウム、アルミニウム、チタンなどからなる無機物質(建材等)の破片と推定された。

【 食品添加物担当 】

# ウエストナイルウイルス(WNV)のサーベイランス事業(その4)

平成19年度もウエストナイル熱対策事業の一環として、横浜市内の蚊が保有するウエストナイルウイルスのサーベイランスを6月から再開しましたので報告します。

1999年に米国で初めて確認されたウエストナイル熱はハワイとアラスカ2州を除く全米に流行が拡大しましたが、2002年から2006年までの感染者(死者)は、4,156人(284人)、9,862人(264人)、2,539人(100人)、3,000人(119人)、4,269人(177人)と2004年を底に再度増加傾向がみられます。また、2007年10月2日までの累積では、感染者2,511人、死者64人の報告となっています。

同サーベイランス事業は5年目になりますが、このウイルスは【鳥 蚊 人】の間で感染し、蚊が増加するシーズンを迎えましたので、市内で蚊及び鳥類(カラス)のサーベイランスを再開し、情報の収集及び市民への情報提供を行っています。

衛生研究所では蚊の種類のご同定および蚊とカラスから同ウイルス遺伝子の検出を行っています。

今年度の同事業における20箇所での採集場所については昨年度から変更がありません。なお、今年度は鶴見区の独自事業(昨年度は大黒町スポーツ広場)は中止となりました。

蚊におけるウエストナイルウイルス遺伝子の検査結果(9月25日採集分まで)は全て陰性でした。

## 1 蚊の採集数とWNV遺伝子の検査結果

区名	トラップ設置公園	住所	年間設定回数										総計	内 訳														
			1~3	4~8	9~12	13	14	15	16	13~16	アカイエカ群	ヒトスジシマカ		コガタアカイエカ	ヤマトヤブカ	その他												
2007年			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	9月	集計	集計	集計	集計	集計	
トラップ設置日			集計	集計	集計	4日	11日	18日	25日	集計	集計	集計	集計	集計	集計	集計	集計	集計	集計	集計	集計	集計	集計	集計	集計			
環境創造局(公園)トラップ設置場所																												
1	鶴見	馬場花木園	馬場2-20-1	90	152	305	338	52	41	156	587	1134	28	979	1	19	107											
2	神奈川	三ツ沢公園	三ツ沢西町3-1	64	151	381	140	142	55	207	544	1140	11	1126	0	1	2											
3	西	野毛山公園	老松町63-10	58	73	29	7	0	8	12	27	187	144	36	1	5	1											
4	中	根岸森林公園	根岸台	87	95	129	12	4	5	38	59	370	229	111	4	25	1											
5	南	清水ヶ丘公園	清水が丘73-1	43	68	97	70	30	17	39	156	364	21	306	2	32	3											
6	港南	久良岐公園	上大岡東3-12-1	4	17	60	19	1	0	38	58	139	4	99	1	0	35											
7	保土ヶ谷	横浜市児童遊園地	狩場町213	43	49	52	36	13	11	22	82	226	75	52	1	15	83											
8	旭	こども自然公園	上大池町65	9	29	31	0	6	6	21	33	102	38	50	5	3	6											
9	磯子	根岸なつかし公園	下町86	49	31	44	4	3	5	28	40	164	54	97	3	6	4											
10	金沢	長浜公園	長浜106-6	35	36	88	2	5	0	22	29	188	30	152	1	1	4											
11	港北	岸根公園	岸根町725	29	64	45	21	2	2	18	43	181	109	68	0	1	3											
12	緑	霧が丘公園	霧が丘5-24	5	7	28	5	1	1	9	16	56	2	42	0	9	3											
13	青葉	桜台公園	桜台42	7	24	123	28	9	10	32	79	233	109	120	3	0	1											
14	都筑	都筑中央公園	茅ヶ崎中央57	8	41	33	19	3	4	4	30	112	26	57	2	20	7											
15	戸塚	舞岡公園	舞岡町1703	10	28	13	5	2	2	64	73	124	6	31	1	6	80											
16	栄	飯島わんわん公園	飯島町2908-2	8	24	23	11	5	8	25	49	104	14	80	0	4	6											
17	泉	泉中央公園	和泉町3026-1	7	38	68	2	4	4	15	25	138	4	92	0	3	39											
18	瀬谷	瀬谷狹路公園	阿久和西3-52-6	15	13	55	1	4	2	29	36	119	0	39	0	45	35											
港湾局トラップ設置場所																												
19	中	シンボルタワー	本牧埠頭1-16	93	413	211	42	32	12	32	118	835	665	78	90	0	2											
20	鶴見	大黒中央公園	大黒埠頭1	32	148	68	117	54	41	10	222	470	74	385	8	3	0											
中区独自事業																												
21	中	横浜公園	横浜公園	23	85	97	8	1	2	23	34	239	171	61	6	1	0											
22	中	本牧市民公園	三之谷59	41	142	300	63	1	0	2	66	549	15	527	4	1	2											
総 計				760	1728	2280	950	374	236	846	2406	7174	1829	4588	133	200	424											
蚊の種類																												
			回数	1~3	4~8	9~12	13	14	15	16	13~16	総計																
アカイエカ群				372	745	493	72	36	19	92	219	1829																
ヒトスジシマカ				276	772	1587	854	298	195	606	1953	4588																
コガタアカイエカ				5	80	10	2	16	8	12	38	133																
ヤマトヤブカ				82	61	40	5	2	1	9	17	200																
その他				25	70	150	17	22	13	127	179	424																
総 計				760	1728	2280	950	374	236	846	2406	7174																
WNV遺伝子の検出結果				(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)																

(備考) 蚊の種類の中には、キンバラナガハシカ等が含まれる

## 2 カラスの検体

本検査情報8月号(その2)で報告した平成19年8月1日(ハト3羽)以降の検査依頼はありません。

【 ウイルス担当・医動物担当 】

# 感染症発生動向調査委員会報告 9月

## 今月のトピックス

海外旅行によるデング熱の患者が5例報告されました。

百日咳で、20歳以上の報告が目立ちます。

O157等、腸管出血性大腸菌感染症の発生は減少しています。

### 【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点：84か所、内科定点：55か所、眼科定点：15か所、性感染症定点：26か所、基幹(病院)定点：3か所の計183か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症とを報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計139定点から報告されます。

平成19年8月20日から平成19年9月23日まで(平成19年第34週から第38週まで。ただし、性感染症については平成19年8月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 平成19年 週 - 月日対照表

第34週	8月20～26日
第35週	8月27～9月2日
第36週	9月3～9日
第37週	9月10～16日
第38週	9月17～23日

### 全数報告疾患

#### < 腸管出血性大腸菌感染症 >

毎年、夏に報告が多くなります。今年も、6月から報告が増え、7月は27例、8月は28例でしたが、9月は27日現在で3例に減少しています。しかし、全国では多く報告されており、注意が必要です。市内の発生例では、小児がレバ刺し、ユッケ等の生肉を摂取した例がありました。

予防対策の詳細については、以下をご覧ください。

「腸管出血性大腸菌感染症 O157に注意しましょう」(横浜市衛生研究所作成チラシ)

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2007nen/o1572007.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2007nen/o1572007.pdf)

腸管出血性大腸菌Q & A(厚生労働省 2007年8月改訂)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/index.html>

#### < デング熱 >

第38週に5例の報告がありました。いずれも海外旅行での感染で、特に、アジアからの帰国者が目立っています。予防接種も予防薬もないため、蚊に刺されないようにすることが、唯一の予防法です。

詳しい情報は、横浜市感染症臨時情報「東南アジアで、デング熱に感染する人が増えています！」

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2007nen/dengue.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2007nen/dengue.pdf)

をご覧ください。

#### < レジオネラ症 >

8月も3例と、4月以降毎月報告があり、今年は現時点での合計が21例で、昨年までと比べて非常に増加しました。全国でも、第37週までの累計は440例と、かなり多くなっています。(表参照)

レジオネラ症については、平成15年4月より、尿中レジオネラ抗原検査が保険適用になり、診断が迅速に出来るようになりました。しかし、レジオネラ肺炎は、早期に適切な治療(マクロライド系、ニューキノロン系、リファンピシンの投与等)を行わないと、症状が急激に悪化したり、致命的になる場合があります。高齢者や、糖尿病などの基礎疾患がある人は注意が必要です。また、肺炎患者においては、循環式浴槽やジャグジーなどの入浴施設の利用を確認する事も必要と思われます。

レジオネラ症の報告数の年別推移(2000年～2007年第37週)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
全国	154	86	167	146	161	281	514	440
神奈川県	2	2	4	6	6	19	26	31
横浜市(再掲)	-	-	3	2	1	8	7	19

その他の疾患については、横浜市感染症発生動向調査全数情報をご覧ください。  
[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/report.html#zensu](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/report.html#zensu)

## 定点報告疾患

### < A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 >

今年、過去5年間と比べても一番高い値が続いていましたが、第34週には、例年並みの定点あたり0.30まで低下しました。その後少し増加し、第38週は、定点あたり0.49でした。全国では、第34週から増加が続き、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、第37週は定点あたり0.84でした。例年、冬季にもピークが見られるので、今後の動向に注意が必要です。

### < 感染性胃腸炎 >

毎年秋から冬にかけて流行します。今年、6月以降、過去5年間と比べて高い値が続いています。全国では、第34週から増加が続き、過去5年間と比べて高くなっています。昨年は、非常に大きな流行がありましたし、冬にかけて増えていくので、立ち上がりの時期も含めて、動向に注意が必要です。

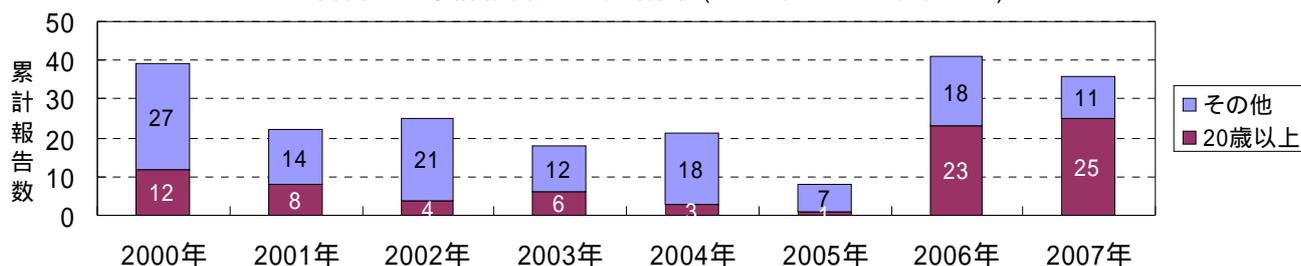
### < 手足口病 >

例年、第28～29週にピークがありますが、横浜市では、昨年は秋に小さな山がありピークは第41週でした。今年、7月中旬から8月中旬にかけて、昨年の秋程度の小さな山が見られ、ピークは第31週の定点あたり1.33でした。その後は減少していましたが、第37週から増加し、第38週は定点あたり0.70でした。全国でも、第35、36週は増加して高めになっており、今後も、動向には注意が必要です。

### < 百日咳 >

今年、第38週までで36人の報告があり、20歳以上が多くなっています。第34週～38週での報告を見ると、12人のうち6人が20歳以上、あとは1歳が1人、11ヶ月以下が5人でした。成人は、症状が典型的ではないために診断が見逃されやすく、感染源となって周囲へ感染を拡大してしまうこともあります。百日咳は、母体からの移行抗体が有効に働かないために、乳児早期から罹患する可能性があり、ことに生後6か月以下では重症化する危険性があるため、早めに予防接種を受けることをお勧めします。(三種混合ワクチンとして、生後3か月から接種できます。)

百日咳の累計報告数の年別推移(2000年～2007年第38週)



#### < 麻しん >

横浜市では、第22週の14人をピークに、麻しんの流行はほぼ終息しました。その後散発が見られましたが、第35週に15～19歳が1人報告された後は、0人が3週続いています。全国では、福岡、大阪など、9月に入っても報告数が多いところがあり、大阪では、9月中旬に臨時休校した高校があります。麻しんの流行は、春季から初夏にかけてが一般的ですが、秋季においても警戒を継続していく必要があります。

麻しんの予防接種については、単独ワクチンの1回接種から、2006年度より、麻しん風しん混合ワクチンによる2回接種に変わっています。横浜市の接種率は、第 期が100%、第 期が約80%です。麻しんの排除に向けては、 期・ 期ともに高い接種率を維持していく必要があります。

#### < 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系(産婦)の11定点、および泌尿器科・皮膚科系(泌・皮)の15定点からの報告に基づいて集計されています。

8月の男女合計の定点あたり報告数は、性器クラミジア感染症と尖圭コンジローマで7月より増加し、性器ヘルペスウイルス感染症と淋菌感染症で7月より減少しました。また、昨年8月と比べて増加していたのは、尖圭コンジローマだけでした。

#### 【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

#### 衛生研究所から

#### < ウイルス検査 >

2007年9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点28件(咽頭ぬぐい液)、基幹定点3件(髄液2件、咽頭ぬぐい液2件、便1件)、眼科定点3件(結膜ぬぐい液)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎23人、ヘルパンギーナ2人、胃腸炎1人、口内炎1人、発熱のみ1人、基幹定点は無菌性髄膜炎2人、ウイルス性脳症の疑い1人、眼科定点は流行性角結膜炎3人でした。

10月10日現在、小児科定点のヘルパンギーナ患者1人の検体からコクサッキーウイルスB3型、気道炎患者1人の検体からアデノウイルス2型が分離されています。

これ以外に、PCR検査では、小児科定点の気道炎患者2人の検体からコクサッキーウイルスA2型、1人の検体からRSウイルス、ヘルパンギーナ患者1人と口内炎患者1人の検体からコクサッキーウイルスA10型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

#### < 細菌検査 >

今月の受付はありませんでした。

# 感染症発生動向調査における病原体検査 9月

病原体定点からの細菌分離・同定状況

## 感染性胃腸炎

2007年9月

検査年月	9月		2007年1～9月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数				67
<b>菌種名</b>				
サルモネラ				
腸管病原性大腸菌				5
毒素原性大腸菌				3
組織侵入性大腸菌				
腸管出血性大腸菌				2
腸管凝集性大腸菌				
黄色ブドウ球菌				
カンピロバクター				
不検出			0	57

## 呼吸器感染症等

2007年9月

検査年月	9月		2007年1～9月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数			11	2
<b>菌種名</b>				
A群溶血性レンサ球菌	T3			
	T4		2	
	T6		1	
	T12		1	
	T25		1	
	T型別不能			
B群溶血性レンサ球菌			1	
G群溶血性レンサ球菌				
インフルエンザ菌				
パラインフルエンザ菌				
黄色ブドウ球菌				
髄膜炎菌				1
不検出			5	1

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【細菌担当】

# 由来別病原菌検出状況 9 月

2007年9月

検体の種類	分離菌株数					
	ヒト		環境		食品	
	糞便、尿、咽頭ぬぐい液、 喀痰等 菌株による依頼を含む		河川水、河川底泥等		食品、食品容器等のふきとり、 飲料水等	
菌種名	9月	1-9月	9月	1-9月	9月	1-9月
コレラ O - 1						
O - 1以外			7	14		
赤痢菌 A						
B		2				
C						
D		5				
その他		1				
チフス菌						
パラチフスA菌		2				
その他のサルモネラ						
O4群	14 <sup>*1</sup>	15		1	1 <sup>*1</sup>	1
O7群		2	1	1		
O8群		1				
O9群						
O3, 10群				1		
その他						
腸管病原性大腸菌		5				
毒素原性大腸菌		46				
組織侵入性大腸菌						
腸管出血性大腸菌	19	76				
腸管凝集性大腸菌						
腸炎ビブリオ	15 <sup>*2</sup>	17			2 <sup>*2</sup>	2
黄色ブドウ球菌	9 <sup>*3</sup>	22				
カンピロバクター	2	18				3
ウェルシュ菌		24				2
A群溶血性レンサ球菌		6				
B群溶血性レンサ球菌		1				
レジオネラ菌	2	5				
その他		2		2		
取り扱い件数	160		9		179	

\*1 S. Typhimuriumによる食中毒事例

\*2 血清型 O3:K6による食中毒事例

\*3 4株はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌、残り5株は黄色ブドウ球菌による食中毒事例

【細菌担当】

## 衛生研究所WEBページ情報(その43)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を市民にわかりやすく提供しています。

今回は、2007年8月のアクセス件数、アクセス順位及び2007年9月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

### 1 利用状況

#### (1) アクセス件数 (2007年8月)

2007年8月の総アクセス数は、325,999件でした。主な内訳は、感染症67.2%、食品衛生12.5%、保健情報6.9%、生活環境衛生2.3%、検査情報月報6.3%でした。

#### (2) アクセス順位 (2007年8月)

8月のアクセス順位(表1)は、「百日咳について」が第1位でした。

これは、百日咳が7年ぶりに流行(特に成人患者の割合が増えています)している影響と考えられます。

国立感染症研究所によると、百日咳患者の報告数は2007年に入ってから8月下旬までに累計で1,400人を超えています。これは年間報告数が3,804人だった2000年に次ぐ大きな流行です。

2位が「手足口病について」、3位が「ヘルパンギーナについて」と夏に流行する疾患の件数が多く、関心が高かったものと思われます。

今回、初めて「口てい疫(口蹄疫)について」が上位10位にはいりました。これは、英国で牛における口蹄疫ウイルスの感染が確認された影響と思われます。

表1 2007年8月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	百日咳について	16,165
2	手足口病について	12,602
3	ヘルパンギーナについて	10,078
4	性器クラミジア感染症について	6,778
5	マイコプラズマ肺炎について	6,510
6	EBウイルスと伝染性単核症について	4,456
7	サイトメガロウイルス感染症について	4,199
8	食品衛生情報 ちょっと専門的なデータシート	3,580
9	口てい疫(口蹄疫)について	3,311
10	大麻(マリファナ)について	3,284

データ提供:行政運営調整局IT活用推進課

(3) 電子メールによる問い合わせ (2007年9月)

2007年9月にホームページのお問合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、4件でした(表2)。

表2 2007年9月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
記事の引用について	1	衛生研究所
ダイオキシンについて	1	衛生研究所
感染症法の記載について	1	衛生研究所
受動喫煙について	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2007年9月)

2007年9月に追加・更新した主な記事は、5件でした(表3)。

表3 2007年9月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
9月5日	日本脳炎について	更新
9月6日	横浜市内における蚊・カラス等のウエストナイルウイルス検査結果	更新
9月10日	2007(平成19)年度のインフルエンザワクチンについて	更新
9月18日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	更新
9月21日	東南アジアで、デング熱に感染する人が増えています!	追加

[ 感染症・疫学情報課 ]